

演題名	医療消耗品費の削減		
施設名	ねりま健育会病院	(ふりがな) 発表者(職種)	(やまのうち ゆうじ) 山之内雄治(総務)
(ふりがな) チーム名	(り りでゆーす) Re:Reduce		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
取り組種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	COVID-19発生以降衛生材料費の金額が増加したため、衛生とのバランスを取りながら衛生材料費を削減 衛生物品以外の衛生材料費をCOVID-19発生前の2019年の水準にし、衛生物品を適正使用を行いながら 2023年の1割減を目指した。		
改善の指標と その目標値	(指 標)2024年度の月額の衛生材料費 (目標値) 去年の月額の医療消耗品費が143万円だったのを月額121万円以内にする。		
実施した対策	血糖測定器の交換によるランニングコストの削減、複数使っていたハンドソープの統一、環境衛生で使用して いたワンウェイガーゼの使用の取りやめ。 感染対策委員会でのラウンド時にPPEの使用方法、手指衛生の確認を行い、使用する物品の適性化 ラウンドでチェックリストを導入し5Rのカードを導入することにより結果のモニタリングや、より精度の高いラウ ンドを行い使用物品の適性化を行う。		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 衛生材料費月額143万円(23年度実績) (実施後) 衛生材料費月額126万円(24年度4月実績)		
歯止めと 標準化	感染対策委員会の毎週のICTラウンドでPPE物品等の使用の適正化を監督する。 毎月の棚卸しで使用量・金額の確認を行い問題が無いかを確認する。		
活動の種類 ※複数選択可	①職場単位の活動 ④組織全体で取り組んだ活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動	チーム メンバー (職種)	1 山之内 雄治 総務
活動の場 ※複数選択可	①診療部門 ②支援部門 ③管理部門		2 鈴木 孝征 医師
活動期間	2024年1月～6月		3 岡田 美久 看護師
リーダー名 (職種)	山之内雄治(総務)		4 佐藤 裕太 看護師
活動回数	17 回		5 建部 裕子 看護師
			6 石田 美紀 看護師
		7 町田 俊太郎 理学療法士	
		8	
		9	
		10	
		11	
		12	
		13	

【現状把握】

現状把握



COVID-19発生以降衛生材料費の金額が増加した。発生前の2019年と比べるとピーク時の2022年では約1000万円の増加があった。

【目標設定】

目標設定

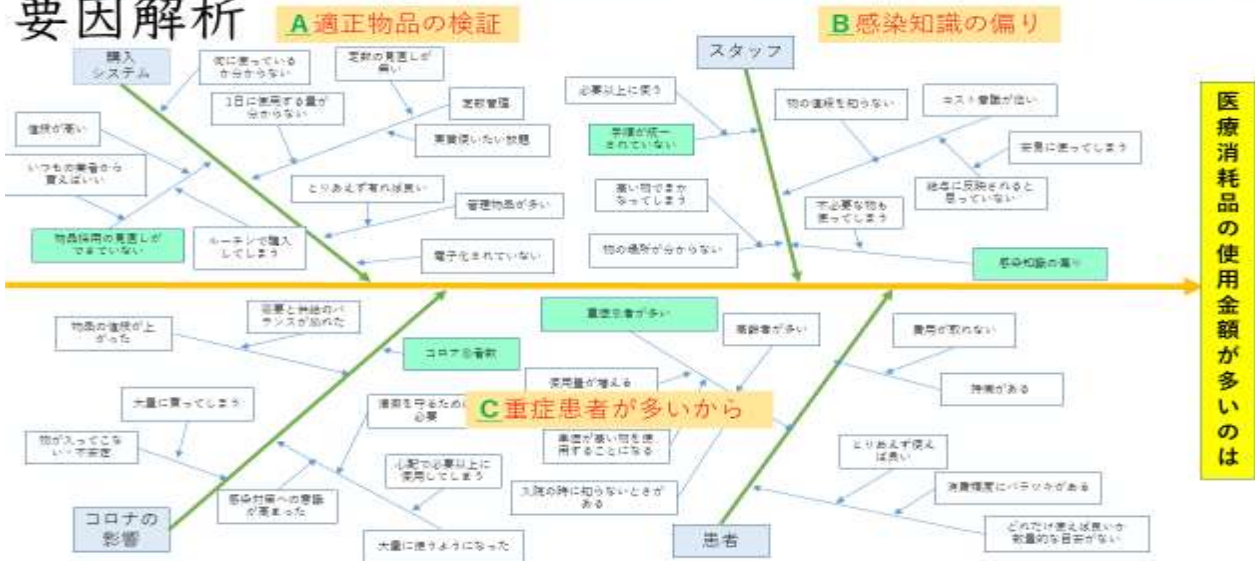


衛生物品の分類で、PPEに関連するものを2023年から更に1割削減し、それ以外の物品をコロナが発生する以前の2019年度を目標にしました。結果2024年度の年間目標が1457万円で月額121万円となりました。

【要因解析】

使用金額増大の要因を、特性要因図を使いA～Cの3つの重要要因に絞り込み、検証を行った

要因解析



フィッシュボーンを用いて要因解析を行い、A適性物品の検証、B感染知識の偏り、C重症患者が多いからの3つの要因に絞り込み検証を行いました。

重要要因Aでは、適宜物品の確認は行ってきましたが、総点検は2年間行っておらず、安価で使用できる物や大量使用している物が発見できたので真因といたしました。

重要要因Bでは、毎週行っているICTラウンドで職種によってPPEの選択の差異やキャリアによるPPEの選択に偏りがありましたので真因としました。

重要要因Cの検証では、衛生材料費ピーク時の2022年と比較して重症患者数は大きな差異が無いことから真因では無いとしました。

【対策の立案と実施】

対策実施1



ほぼ全ての衛生材料を見直し血糖測定器を新しくしランニングコストを減らし、ディスポオキシプローブをリユーズブル製品にし、ハンドソープを1つに統一しました。また、環境衛生で使用していたワンウェイガーゼの使用を取りやめました。

対策の実施2で感染対策委員会でのラウンド時にPPEの使用方法、手指衛生の確認を行い、使用する物品の適性化を図りました。ラウンドでチェックリストを導入し5Rのカードを導入することにより結果のモニタリングや、より精度の高いラウンドを行いました。

【効果の確認】

有形効果



衛生材料費の推移グラフです。2024年4月末の時点で月額の衛生材料費が126万円にまで下がりました。目標は達成できてはいませんが、グラフから衛生材料費が減少しつつあることが分かります。

波及効果として、ハンドソープや、血糖測定針を統一したことにより、選ぶ手間が無くなりました。また、感染対策のラウンドにより各部署の対応状況を把握でき、ラウンドの精度が向上しました。

【標準化と管理の定着】

	なにを	いつ	誰が	なぜ	どこで	どうする
標準化	医療材料を	毎月	師長と発注担当が	使用量の適正化を図るため	現場で	使用ルールの確認及び不要物品の確認を行う
標準化	PPEの装着方法と手指衛生方法を	毎週	師長と感染委員会が	PPEとゴーゴの適性使用を図るため	現場で	ICTラウンドをしてチェックする。
教育	物品のコストを	入職するとき	発注担当が	病院全体にコスト意識を持たせるために	新入職研修で	コスト意識を持たせるための講習を行う。
教育	PPEの装着方法と手指衛生方法を	入職時と毎年の悉皆研修時	師長と感染対策委員が	PPEとゴーゴの適性使用を図るため	新入職研修で	研修を行う。
管理	医療消耗品費	毎月棚卸計上時	棚卸し担当者が	使用額が増大していないかを監視するため	倉庫で	医療消耗品費の確認を行う。

【反省と今後の進め方】

発表の時期が前倒しになったので、効果の確認や、発表データのまとめを急ピッチで進めることになったので資料作成を同時に進められれば良かった。